

平成27年度 八戸市公共事業再評価シート

平成 27年 11月 10日

27-	担当部署	都市整備部 公園緑地課 公園整備グループ(内線4813)		
事務事業名	こどもの国整備事業			
再評価実施要件	5年未着工	長期継続(年)	再評価後(5年)	その他()

1 事業の概要

総合計画の 施策の体系	分野	5.安全・安心なまちづくり						
	大施策	5-4.居住環境の整備						
	中施策	1.快適でうおいのある市街地の形成						
	小施策	公園・緑地の整備						
	事業	こどもの国整備事業(こどもの国(八戸公園)の整備)						
採択年度	昭和56年度	用地着手年度 昭和 56年度	工事着手年度 昭和 56年度					
終了年度	平成30年度	平成26年3月工期変更 (変更前の終了年度 平成26年度)						
事業目的	<p>本公園は、八戸市南部の郊外に位置しており、子供から大人まで一日中楽しく遊び憩える場として、また、災害時の広域避難地、さらには都市緑化推進の情報発信拠点としての役割など、市民の生活環境への関心や余暇増大等に伴う多様なニーズに対応した、八戸圏域を代表する屋外レクリエーションの場となる公園として整備を進めている。</p> <p>これまで園内に9つあるゾーンを順次整備を進めてきている。直近の整備としては、桜を主とした花見広場である「サクラの杜ゾーン」において、サクラの杜を散策する市民の休憩所となる四阿(あずまや)の整備、「遊園地ゾーン」では、炎天下時の日除けを兼ねた休憩所として、また災害時には防災拠点施設となる大型(防災)シェルターの整備を進めてきている。</p> <p>今後については、来園者のさらなる利便を図るため、現況の地形と自然環境を活かした自然体験学習の中核施設となる(仮称)クワガタ館やクワガタ館までの園路整備を計画しており、親子共に自然と触れ合いながら楽しく遊べる公園を目指すものである。</p>							
事業内容	事業内容			事業 方法	国庫補助事業			
	ゾーン名	主な施設	計画面積 (ha)		供用面積 (ha)	県補助事業		
	緑化植物園ゾーン	緑の相談所、見本園、池	5.6	5.6	財 源 負 担	市単独事業		
	入口広場ゾーン	カナル広場、日本庭園、ローズガーデン	2.9	2.9		国(50%)		
	駐車場ゾーン	駐車場(約1,000台)	4.2	4.2		県(%)		
	芝生広場ゾーン	多目的芝生広場	3.8	3.8		市(50%)		
	展望ゾーン	展望台、滝、モニュメント(縄文親子像)	2.0	2.0				
	遊園地ゾーン	ゴーカート場、大型遊戯施設他(ジェットコースター他7種)	4.1	4.1				
	わんぱくゾーン	わんぱく広場、キャンプ場、炭焼き小屋	1.5	1.5				
	動物放牧ゾーン	サル山、動物ふれあい広場、動物舎	2.9	2.9				
サクラの杜ゾーン	サクラの柵席、交流館、ソリゲレンデ、クワガタ館他	10	3.4					
	計	37.00	30.40					
事業費	当初計画総事業費 5,130,000 千円		再評価時総事業費 5,000,000 千円		単位:百万円			
		~23年度	24年度	25年度	26年度	小計	残事業 (27年度~)	合計
	当初計画 (うち用地費)	5,130.0 (767.0)	()	()	()	5,130.0 (767.0)	()	5,130.0 (767.0)
	昭和56年4月採択							
	現計画 (うち用地費)	4,365.0 (603.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	133.0 (0.0)	4,498.0 (603.0)	502.0 (175.0)	5,000.0 (778.0)
平成26年3月変更								
実績 (うち用地費)	4,365.0 (603.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	27.0 (0.0)	4,392.0 (603.0)	608.00 (175.00)	5,000.0 (778.0)	

2 項目別評価

(1)事業の進捗に関する視点

(A) ・ B ・ C

進捗率	計画全体に対する進捗		当初計画に対する進捗	
	事業費割合	87.84% [/]	85.61% [/]	
	(うち用地費)	(77.51%) [/]	(78.62%) [/]	
整備状況	項目	当初計画	現計画	整備状況
	整備区域面積(ha)	32.7	37.0	30.4
事業の進捗に関する説明	平成27年度現在の事業進捗率は約88%に達している。 今後は、クワガタ館及び周辺整備、こども交流館からクワガタ館までの園路やマウンテンバイクコースの整備などを予定している。			

(2)事業の必要性等に関する視点

(A) ・ B ・ C

必要性に関する説明	当初計画時	昭和50～60年代にかけて、社会情勢の変化による市民の余暇時間の拡大に伴い、休日の過ごし方として趣味・娯楽といったレクリエーションへのニーズが高まり、レジャーランド的な公園整備が必要となった。 昭和56年に既設の緑化植物園を吸収し、緑の情報発信拠点としての役割も継承しつつ、市民の多様なレクリエーション需要に対応できるよう、野外レクリエーション施設だけでなく、文化・教養・娯楽・集会などの複合的な機能を持つ総合公園が必要となった。
	現在	当市の一人当たりの公園面積は10.30㎡(平成26年度末現在)で県内平均17.42㎡と比較しても低い水準にあり、「八戸市緑の基本計画」における目標値16.00㎡(平成35年度)の達成には当公園の整備が必要不可欠である。 当公園は、毎年約60万人もの人々が来園する八戸圏域最大の屋外レクリエーションの場である。このため、平成16年3月策定の「八戸市緑の基本計画」では、市内外の人々が集いにぎわう拠点としての整備充実や、市民ニーズの多様化に対応した拠点づくりを図る公園として位置付けられている。 八戸市地域防災計画に災害時の広域避難地、地域防災拠点として位置付けられており、防災公園としての役割が求められている。
その他特記事項	「八戸市緑の基本計画」の策定にあたり実施した市民アンケートにおける「こどもの国」の代表的なニーズは以下のとおりである。 1. 市内の好きな緑について・・・「こどもの国」が種差海岸とともに他に比べて特に高い数値(61%)を示しており、広く市民に好まれている緑となっている。 2. 緑のまちづくりの方向性について・・・「樹木が多く水辺があり、生き物にふれあうことのできる緑地を増やす」がもっとも多く47%となっている。 平成23年度に来園者を対象に実施したアンケート調査の結果によると、公園の満足度は7割を超えており、また、今後の自然体験学習等の施設計画については、実現してほしいが約8割となっている。	

(3)事業の投資効果に関する視点

A ・ (B) ・ C

事業効果等	評価指標	再評価時	再々評価時	増減	参考値																																																												
	費用便益比()	1.85	1.58																																																														
	こどもの国入場者(人)	509,500	678,400	168,900																																																													
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">内訳</td> <td colspan="4">単位:百万円</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>主な項目</td> <td>再評価時</td> <td>再々評価時</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用項目</td> <td>施設費</td> <td>7,673.0</td> <td>9,279.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>用地費</td> <td>1,099.0</td> <td>1,279.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>10,922.0</td> <td>13,477.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>19,694.0</td> <td>24,035.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">便益項目</td> <td>利用価値</td> <td>15,990.0</td> <td>14,899.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>環境価値</td> <td>9,800.0</td> <td>11,194.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>防災価値</td> <td>10,606.0</td> <td>11,911.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>36,396.0</td> <td>38,004.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">B / C</td> <td>1.85</td> <td>1.58</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>						内訳		単位:百万円				区分	主な項目	再評価時	再々評価時			費用項目	施設費	7,673.0	9,279.0			用地費	1,099.0	1,279.0			維持管理費	10,922.0	13,477.0			総費用	19,694.0	24,035.0			便益項目	利用価値	15,990.0	14,899.0			環境価値	9,800.0	11,194.0			防災価値	10,606.0	11,911.0			総便益	36,396.0	38,004.0			B / C		1.85	1.58		
内訳		単位:百万円																																																															
区分	主な項目	再評価時	再々評価時																																																														
費用項目	施設費	7,673.0	9,279.0																																																														
	用地費	1,099.0	1,279.0																																																														
	維持管理費	10,922.0	13,477.0																																																														
	総費用	19,694.0	24,035.0																																																														
便益項目	利用価値	15,990.0	14,899.0																																																														
	環境価値	9,800.0	11,194.0																																																														
	防災価値	10,606.0	11,911.0																																																														
	総便益	36,396.0	38,004.0																																																														
B / C		1.85	1.58																																																														
費用便益分析手法	改訂第3版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル(平成25年10月 国土交通省都市局公園緑地・景観課制定)に基づく。																																																																
特記事項																																																																	

(4) 事業のコスト縮減等に関する視点

(A) ・ B ・ C

コスト縮減対策の実施状況	○現況の地形や樹木を生かした公園づくり。 ○平成18年度から導入された指定管理者制度による、維持管理費の縮減。
事業代替案の可能性	○当初、公園北東部は動物放牧ゾーンとして熊放牧等の動物施設が計画されていたが、事業費や維持管理費の縮減、また、自然環境の保全等を考慮し、平成14年度に「サクラの杜」ゾーンとして事業計画を見直していることから代替案は無い。

(5) 環境影響への視点

(A) ・ B ・ C

配慮手法	建築設計段階で省資源、省エネルギーを推進	建築機械、工事車両には低騒音、低振動、低排出ガスの機械を使用
	建築設計段階で太陽光発電システム、その他再生可能エネルギーの導入	建設副産物のリサイクル推進
	施設の緑化	廃棄物の分別処分
	再生資源の使用	:実施 ×:未実施 -:対象外

3 総合評価

(1) 対応方針(案)

総合評価	継続	計画変更	休止	中止	
理由	<p>こどもの国は毎年約60万人もの入園者数を誇る八戸圏域を代表する公園として、遊園地や植物園、また2千本の桜による花見の場等、子供から大人まで一日楽しめる公園として整備を進めてきている。</p> <p>平成23年4月の「こども交流館」オープン後は、多くの家族連れや県内外の方々にも年間を通して利用されており、年々来園者数も増加している。さらには家族で遊べる観光スポットとして主要な観光ルートに組み込まれる等、観光面への効果も大きい。今後も市民の多様なニーズに応えるため、こどもの国の自然や現況の地形を活かした施設として、親子で自然環境にふれあえる自然体験学習施設の整備等を行い、総合公園としての機能をさらに高めていく必要があることから、事業継続としたい。</p>				

(2) 行政改革委員会意見

委員会評価	継続	計画変更	休止	中止	
附帯意見理由等	市民ニーズを踏まえた施設整備を進めて魅力の向上を図るとともに、開園期間の延長やPRの充実などにより、入園者の更なる増加を目指すこと。				

(3) 対応方針(決定)

総合評価	継続	計画変更	休止	中止	
理由	対応方針(案)に示したとおり、本事業の継続に当たっては行政改革委員会の意見を踏まえ、新たな施設整備による魅力向上を図るとともに、情報発信に努め入園者の更なる増加を目指す。				